

クロイトトンボ

Cericion calamorum

イトトンボ科



クロイトトンボ

名前の由来

「黒糸トンボ」で黒っぽい体色の糸トンボ、糸は腹部が細いためだと思われる。「トンボ」については、東北地方でトンボのことを「ダンブリ」「ドンブ」などといい、「ドンバ」→「トンバウ」→「トンバ」→「トンボ」となったのでは、という説がある。また「飛ぶ棒」が変化したものという説もあるが、「棒」が漢語であり、古代日本語としては不適切との指摘がある。漢字名：黒糸蜻蛉

形態的特徴

体長30～35mm。オスは全身光沢のある青っぽい黒色で、成熟すると白い粉を吹く。メスは全身が黄緑色。

類似種と見分け方：オスは良く似た種類はないが、メスは

他のイトトンボ類全般と類似。

体色、胸部や腹部の斑紋で区別できる。

生息環境・分布

平地から丘陵地の池沼に生息。狭い池よりも広く深い池を好む傾向にある。

分布：中国中部・北部、朝鮮半島に分布。国内分布は、九

州以北。北海道内では、全域に分布。

十勝地方では、平地から丘陵地の湿原、池沼に生息。帯広市、音更町、幕別町、豊頃町などで確認されている。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカヤハエなどの昆虫類やクモ類を捕食する。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとムシヒキアブなどの肉食性昆虫やクモ類、カエル類、大型のトンボ類、鳥類などに捕食される。

繁殖生態・寿命

産卵は連結したまま行われ、浮葉植物などの組織内に産みつけられる。成虫は6月上旬から9月中旬に見られる。

寿命：幼虫期間1年以内、成虫期間1～2ヶ月。

興味深い話

■広い池の水面にいる黒っぽいイトトンボは主にこのトンボである。

■広い水面の水ぎりぎりを飛ぶことが多いため、胴長を

はいて池の中で待ち構えないとなかなか捕獲できない。

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

配慮事項

他のトンボ類と同様に、池や沼の中に水草が生えていることが大事。羽化するとき水草に登って羽化する。池や沼

の周辺に樹木や草原があることも大事。羽化後の成虫の採餌場と休息場となる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

参考文献

「蝦夷の蜻蛉」広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993

「北海道のトンボ」二橋愛次郎 エコネットワーク 2002

「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」石田昇三・石田勝義・杉村光俊 東海大学出版会 1988

「講談社カラー科学大図鑑 トンボ」枝重夫 講談社 1982

「日本産トンボ大図鑑」浜田康・井上清 講談社 1985

「名前といわれ 昆虫図鑑」栗林慧・大谷剛 偕成社 1987

「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」更科源蔵・更科光、法政大学出版局 1977

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ